

Title	序(鈴木保良先生退任記念号)
Sub Title	Preface(A Special Issue to the Memory of Professor Yasura Suzuki)
Author	鈴木, 諒一
Publisher	
Publication year	1972
Jtitle	三田商学研究 (Mita business review). Vol.15, No.3 (1972. 8) ,p.l-
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234698-19720830-03958894

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

序

鈴木保良先生は本年3月を以て慶応義塾の教壇を去られた。思えば長い年月であった。先生は経済学部時代から塾のために尽されたのであるが草創期の商学部において昭和34年から38年にかけて二期学部長を務められ、カリキュラムの充実、大学院の修士課程及び博士課程の新設に当っては陣頭指揮をとられ、その甲斐あって、大学院審査に当っては当時申請を出していた諸校に抜きん出たスタッフを持つ優秀な大学院であるとの認定を受けた。商学部は故金原賢之助先生によって創設され、鈴木先生によってその基礎が固まっていったと云えるであろう。商学部も今年で創立15周年を祝ったわけであるが、明年は大学院博士課程の創設10周年になる。商学部の今日あるは、金原先生、園先生、鈴木先生、故小高先生、中西先生ら、草創期の長老の先生方に負うところが大きい。鈴木先生は昭和42年から44年にかけて学部長に三選され、商学部の育成に多くの貢献をされた。戦前から終戦後にかけてはマーケティングも今日のように体系化されていず、今日ほどの世間的関心もなかったのであるが、当学部において商業学系統の講座を充実し、マーケティングの今日の隆盛を築かれた先覚者であった。先生の直接の後継者としては学内に残っているスタッフだけでも、片岡教授、村田教授、浅井助教授、清水猛助教授、堀田助教授があり、白石教授もその学問の性質上、先生に接する機会が多かった。先生は又、商学部学生に対する法律知識の充実に深い関心を寄せられ、停年退職される間際まで熱心に計画を練られた。私自身、先生が学部長時代、学部及び大学院の学習指導を務めた関係で先生に接することが少なくなかったが、学科内容の充実については極めて深い関心を寄せられたし、経済学、商学、経営学の交流についても深い理解を示されていた。今、塾の教壇を去られるに当って、先生の御健康と御繁栄を心から御祈り申し上げたい。

昭和47年9月

商学部部長

鈴木 諒 一